



安全・安心な生活を守る防災拠点に

荒尾消防署南関分署落成式

有明広域行政事務組合消防本部荒尾消防署南関分署の落成式が9月28日、旧南関高校跡地にある同分署で行われ、同組合員や町関係者など約30人が出席しました。

1973年に開設された旧庁舎は、建物の老朽化や耐震性への危惧、各種資器材備蓄スペース確保の必要性から建て替えが喫緊の課題となっており、多種多様な災害へ対応するために消防力の強化が求められていました。

8月31日に竣工した新庁舎は、鉄筋コンクリート造の2階建て、延べ床面積約568m²で、敷地面接は2,020m²。強固な耐震性能を維持し、災害時に備えた自家発電設備や水確保のための井戸が整備されています。また、新庁舎を含む敷地内には防災広場や防災拠点センター、備蓄倉庫などがすでに整備済みで、大規模災害発生時に防災拠点としての機能を維持します。

同組合代表理事の浅田敏彦荒尾市長は「近年頻発している自然災害から、住民の安全安心を守れるような基幹施設にしていきたい」と話しました。

式終盤では、佐藤町長や同本部の村上博恭消防長らによるテープカットが行われ、落成を祝いました。



▲完成した南関分署新庁舎



▲テープカットを行う様子

南関町庁舎等建設現場レポート

第5弾

現場レポート第5弾では改修棟内部工事の進捗状況を掲載します。町公式ホームページにも工事進捗写真を掲載していますので是非ご覧ください。



▲1枚目の写真是、改修棟(教室内装工事の写真です。以前は美術室として利用されていました。O Aフロア化のため床工事がなされています。)



▲2枚目の写真是、前修棟(廊下)です。以前は廊下でしたのが、内装工事によって音楽室として改修されています。木目調の壁が、今では壁へくで場改されています。

空手の全国大会出場

中村陽彩くん

空手の芦原会館南関支部木村道場所属(A-lifeなんなかむらひいろかん)の中村陽彩くん(相谷)は9月24日、佐藤町長を訪問。11月23日に大阪府で開催される第15回JKJO全日本ジュニア空手道選手権大会への出場と、4月に大分県で開催された第15回JKJO全日本ジュニア空手道選手権九州地区代表選抜大会での準優勝を報告しました。

中村くんは「小さいころから目標としていた大会なので、まずは初戦を突破したい」と意気込みを語り、佐藤町長は「自分が周りの目標となるよう、今まで頑張ってきたことに自信をもって試合に臨んでください」と激励しました。



▲中村陽彩くん(中央)

浦田理恵さん地元南関町に凱旋

銅メダル獲得を故郷に報告

東京パラリンピックゴールボール女子日本代表として銅メダルを獲得した浦田理恵選手(豊永)が9月29日、地元南関町へ凱旋帰郷。町役場と母校の第三小学校を訪れ、メダル獲得の報告と応援への感謝を伝えました。

役場で歓迎を受けた浦田選手は「決勝の舞台に立ちたかったという悔しさもあるが、南関町にメダルを持ち帰ることができてうれしい。苦しい時期もあったが、地元や周囲の人の応援があったからこそ踏ん張ることができた。感謝しています」と語りました。佐藤町長は「大きな舞台で躍動する勇姿は、子どもたちに夢と希望を与え、多くの人々に困難へ立ち向かう勇気を届けてくれた」と祝福しました。

また、三小の全校児童やライブ配信でつながる町内全小中学校の児童・生徒を前に「あきらめなければ自分には必ず打ち勝つことができる。壁にぶつかってもその瞬間を大事に、乗り越えた先に待つ次のステップへ向かって頑張ってください」とエールを送りました。6年生のみうらひょうが三浦陽我くん(豊永)は「これからも友達のやさしさや周りの人の支えを大切にしたい」と笑顔でした。



▲三小で行われた報告会の様子



▲銅メダル



▲職員から拍手で迎えられる浦田選手

人生100年 長寿を祝う

町長が訪問

町では、町内の今年100歳を迎える11人の自宅などを訪れ、総理大臣からの祝い状と記念品を贈りました。受賞者は以下のとおりです。

いまむら 今村 利子(上長田)	とし こ 橋本 アサノ(関町)
さかもと 坂本 シノブ(関町)	なりきよ 成清 静(宮尾)
いわさか 岩坂 テル子(関町)	つる 津留 レイ子(関東)
ただくま 多田隈 ヨシエ(上坂下)	かたやま 片山 タミコ(関村)
さるわたり 猿渡 たつき(辰喜)	しょうやま 庄山 シズコ(相谷)
おおくら 大倉 ミツノ(小原)	



▲飛び立つキジを見送る児童

35羽のキジが大空へ羽ばたく

第四小学校6年生

南関第四小学校(松永尚子校長)の6年生13人が9月28日、同グラウンドでキジの成鳥35羽を放鳥しました。

この取り組みは、子どもたちが実際に生き物に触れ合うことで、環境に対する意識や生命の大切さを感じ、野鳥や自然の保護に一層関心を持つもらえるようにと熊本県獣友会と同会南関支部が実施しています。

児童たちは、獣友会メンバーの手を借りながらキジを抱きかかえ、立派に育つことを願い山に向かって勢いよく放ちました。

キジを見送った本多遼佑くん(下坂下)は「初めての体験で怖さもあったけど、元気に飛んでいくキジの姿を見れたのでよかった」と安心の表情を見せました。



▲佐藤町長からお祝いを受ける成清静さん(中央)